

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、（写真 1）（表 1）などと文中に記載し、右ページに（写真 1）（表 1）などと表記の上、貼り付けてください。

※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。

※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. A-27

部門名：カリキュラム・マネジメント実践部門	エントリー名：那須塩原市立南小学校 谷田恵一 平成30年度中堅教員研修
活動名：研修成果の伝達（学校行事の見直しと改善）	
解決すべき課題：本校の学校行事は、地域の特性や地域人材・地域施設などを活用したものが多く、児童自ら課題を見付けて主体的に取り組む活動が多い。反面、行事の準備や打合せに多くの時間が必要であり、行事を精選することが課題でもあった。さらに、教員の中には、形骸化されたこれまでの行事を見直すことに消極的な職員も多く、行事の見直し・改善につながらない現状もある。そこで今回の中堅教員研修で学んだカリキュラム評価(チェックリスト法)を活用し、学校行事の見直しと改善を図り、行事の精選を図れないかと考えた。さらに研修の成果であるカリキュラム・マネジメントの考え方やカリキュラム評価（チェックリスト法）の活用方法などについて、パワーポイントに分かりやすくまとめ伝達講習・校内研修に活かそうと考えた。	
目標・方針：はじめに、カリキュラム・マネジメントの考え方やカリキュラム評価の必要性や有効性についてパワーポイントに分かりやすくまとめ地区の教務主任会で伝達講習を実施した。校内でも研修したことを「中堅教員研修の成果」としてまとめ全職員に資料の配付を行った。さらにカリキュラム評価（チェックリスト法）の利点や使用方法について校内研修を実施した。行事の見直しと改善については、ミニ研修や学校評価の機会を活用し、全職員で話し合い行事の精選を図った。	
活動内容： ○カリキュラム・マネジメントの必要性や有効性、カリキュラム評価（チェックリスト法）について、パワーポイントにわかりやすくまとめ地区の教務主任会で伝達講習を実施した。 ○研修の成果を「中堅教員研修の成果」としてまとめ全職員に資料を配付した。 ○校内研修で、行事の見直し・改善についてチェックリストを活用し実際にカリキュラム評価を行った。 ○チェックリストを活用し学校評価を行い、全職員で行事の見直し・改善・精選を図った。	
活動の成果： ○地区の教務主任会では、カリキュラム・マネジメントの必要性・有効性について伝達することができた。学校評価にカリキュラム評価（チェックリスト法）を取り入れ、データに基づいた評価をすることで行事そのものの良し悪しを客観的に評価する大切さを伝えることができた。 ○校内研修では、「運動会」「ワクワク強歩」についてチェックシートを活用してカリキュラム評価を行った。チェックシートを使用することで評価の観点が明確になり、職員の立場や経験年数などに関係なく、データに基づいた客観的な評価ができた。	
アピールポイント（アイディアや工夫）： ○研修の成果をパワーポイントにまとめて伝達講習や校内研修を実施したり、「中堅教員研修の成果」として資料にまとめたりすることは、自分自身の研修の振り返りやカリキュラム・マネジメントに対する考え方の深化にもつながった。 ○チェックシートを活用したカリキュラム評価は、立場や経験年数に関係なく、データに基づいた振り返りや点検をすることができ、行事等を評価するには大変有効である。さらに、行事の良し悪しを客観的に評価できるので、良い点はどこなのか、悪いのであればどこを改善すればいいのかも分かるようにしてくれるのがカリキュラム評価（チェックリスト法）の良い点である。	

＜作成したパワーポイント＞

那須地区小・中学校及び義務教育学校教務主任研修会

講話
「カリキュラム・マネジメントについて」

平成30年度教職員等中央研修
第3回中堅教員研修についての伝達講話

那須塩原市立鍋掛小学校
谷田 恵一

- ・教育課程とカリキュラムは一部重なるところはあるが基本的に別の考えである。
- ・学習指導要領が変わると、教育課程が変わる、教科書が変わる、入試が変わる、免許更新講習が変わる、大学の教職課程が変わる。

P(計画) → D(実施) → C(評価) → A(改善)

教育課程 カリキュラム

- ・P D C A サイクルを回すことでP(計画)をよくしていく。
- ・必ずしもP(計画)から始まる必要はない。D C A P サイクルなど。

I はじめに

1 第3回中堅教員研修について

(1) 期日 平成30年7月23日(月)～8月3日(金)

(2) 会場 独立行政法人教職員支援機構(茨城県つくば市)



4 カリキュラム評価から見たカリキュラム・マネジメント

(1) 「教職課程コアカリキュラム」へのカリキュラム評価の導入

- ・学習指導要領が改定されると教職課程(教員養成過程) も変わる。
- ・教職課程の科目の中にも、カリキュラム・マネジメントという考え方が入ってきた。
- ・教職課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む)

(1) 教育課程の意義

(2) 教育課程の編成の方法

(3) カリキュラム・マネジメント

- ・一般目標：教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意味を理解する。
- ・到達目標：学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。
- カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。

(2) カリキュラム評価とは何のために行うのか

- ・カリキュラム開発やマネジメントの「サイクル」を成立させるために行う。理由としては、カリキュラム開発やマネジメントは、「カン」や「コツ」ではなく、「データに基づく判断」によって進められる必要があるからである。

P(計画) → D(実施) → C(評価) → A(改善)

判断(ここにプロの目が必要)

↓

・良いか悪いか・悪かったらどこを直すか。

(3) カリキュラム評価とは何をどうすることなのか

- ・平たく言えば「データに基づいた計画や実践の振り返り」「点検」。
- ・カリキュラムの運用手続きそのものも評価の対象とする。
- ・評価は、良いか悪いかで判断する。
- ・評価は価値から逃れることはできない。
- ・悪かったらどこを直せばいいか考える。それをカリキュラムに当てはめて、そのカリキュラムは、良いのか悪いのか。悪いのであればどこを直せばいいのか。それをわかるようにする手続きが評価である。

＜カリキュラム評価（チェックリスト法）の使用法について＞

5 カリキュラム評価のためのチェックリスト(CCEJ)

- ・「評価＝学習者に対するテスト」、あるいは「調査はなんでもアンケートで」、「とにかく数値で、%で」という先入観の対極にある方法が「チェックリスト法」である。対比的に表すならば「評価＝カリキュラムに対する点数」、「人から話を聞くのも評価のうち」、「数値や%ばかりがデータじゃない」となる。
- ・今年で、20回目を迎え日新中学校区で実施されている「ワクワク強歩」について、チェックリスト(CCEJ)を使用して評価を行ってみた。

・使用方法

①各チェックポイントとも、短文で回答する。

②判断の根拠としたデータを適宜添付することが望ましい。

③チェックポイント1～10については、各10点満点で点数もあわせてつける。

④その総計をチェックポイント11として加算し、かつコメントを付す。

⑤チェックポイント1～11までは必須であり、12～14は任意である。

5 この実践の目標(ねらい)はなんですか。	・長距離を歩くことによる体力の向上 ・友達と協力し合う態度の育成 ・豊かな自然や環境を大切に感じる態度	8 / 10
6 「5」で示した目標を達成するため、カリキュラム上どのような工夫や手続きを行いましたか。	・各自参加するに当たってを定めた。 ・事前の説明会を実施した。 ・職員会議で全職員共通理解を図った。	6 / 10
7 この実践の結果はどうでしたか。また、どのような手立てで明らかにしましたか。	・児童・生徒からは、友達と協力して最後まで歩けた。達成感を感じることができた等の感想を得た。	8 / 10
8 この実践に、どれくらい(お金、時間、人手、会議、場所、手間)等をかけましたか。	・参加費300円 ・学校分班金20000円 ・公民館より(バス代・簡易トイレ代) ・実務担当者会3回 ・協力会説明会3回、前日準備	5 / 10
9 この実践の代替案はありますか。また他校の実践等と比べてみましたか。	・小中が一緒に実施することをやめる。 ・各学校で規模を縮小して実施する。	5 / 10